

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	富士宮市における安全・安心な住まいづくりの推進（地域住宅計画）												
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）												
交付対象	富士宮市												
計画の目標	人口・世帯構成及び家族構成の変化（超高齢化社会・少子化の進展、単身世帯・無頼族世帯の増加等）に対応した住宅供給を図るとともに長寿命化対策を推進する。次世代に継承できる安全で良質な住宅ストックを形成する。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,576	A	1,498	B	78	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）	定量的指標の達成及び目標値			
		当初現況値	中間目標値	最終目標値	
		(H28当初)	(H30末)	(H32末)	
1	耐用年数を超えた市営住宅の建替えを行い、人口・世帯構成及び家族構成の変化に対応した住宅供給及び長寿命化対策を推進を図る。 人口・世帯及び家族構成の変化に対応した住宅供給及び長寿命化対策の推進 市営住宅長寿命化計画の建替えに係る事業をもとに算出する。（建替えられた市営住宅の戸数） / （建替え後の市営住宅の全戸数）	0%	%	58%	
2	市営住宅の改善を行い、良質な住宅ストックの形成を図る。 市営住宅のバリアフリー化等による良質な住宅ストックの形成 市営住宅長寿命化計画の改善事業（バリアフリー化等）をもとに算出する。（改善事業（バリアフリー化等）の整備率） = （バリアフリー化等された戸数） / （管理戸数） - （政策空家戸数）	52%	%	100%	
3	市営住宅の改善を行い、長寿命化対策の推進を図る。 市営住宅の設備配管改修等による長寿命化対策の推進 市営住宅長寿命化計画の改善事業（設備配管改修等）をもとに算出する。（改善事業（設備配管改修等）の整備率） = （設備配管改修等された戸数） / （設備配管改修等が必要とされる戸数）	35%	%	100%	

個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	運搬中核都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
備考等											







事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
富士宮市社会資本総合整備計画等事業評価委員会（住宅・建築事業）による評価を実施 学識経験者 日本大学 大沢昌玄教授	
公表の方法 富士宮市ホームページ	
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>・耐震性のない老朽化した住宅からの建て替えにより、住民の安全・安心につながり、快適な生活環境が確保された。</p> <p>・入居者の高齢化が進む中、住宅内におけるバリアフリー化が進められ、安心して暮らせる居住環境の向上を進めることができた。</p> <p>・厳しい財政状況において、老朽化した住宅ストックの効率的かつ円滑な更新を行うため、ライフサイクルコスト縮減、予算の平準化の観点から長寿命化を進めることができた。</p>
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）	<p>関連社会資本として整備した万野住宅外周道路により、歩車分離がされ拡幅されたことにより、交通事故対策がなされ、安心・安全な住環境整備につながった。</p>
○特記事項（今後の方針等）	
<p>・公営住宅整備については、次期計画（令和6年度まで）において残り2棟の建設完了を目標に進めていく。</p> <p>・バリアフリー化事業については、目標に未達であったものの、令和3年度に更新した富士宮市営住宅長寿命化計画の新たな計画により、高齢化社会に対応した住宅確保に努め誰もが安心して暮らせるように次期計画にて目標達成できるように努めていく。</p> <p>・長寿命化の配管改修は計画どおりの棟数を達成できたので、次期計画においても良質なストックの形成と長寿命化対策に努めていく。</p>	

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	住宅供給	
	最終目標値	58%
2	最終実績値	58%
	バリアフリー	
3	最終目標値	100%
	最終実績値	96%
	設備配管改修等長寿命化	
	最終目標値	100%
	最終実績値	100%

入居者及び他工事との調整により、予定どおりの進捗が困難であったため。